

桜美林大学 教育の国際化に係る現状や 今後のビジョン



桜美林大学 学長 三谷 高康



学園の長期ビジョン（2010-2021）

【豊かな教養をもった国際的人材を育成する】

- 国際的に認知されるカリキュラム編成と、その実行を可能にする教育力および運営システムを整備し、学生・教員のモビリティにおいてわが国でトップの学園を目指す。
- 学生の25%程度がインターナショナル・ステューデントとなり、様々な国の学生が共に学び、交わることで、自ずと国際性が身につくキャンパス環境を整える。
- 「国際的な分野の仕事に就くなら桜美林」という広い認知を得られる国際性のブランドを構築する。
- 国際人のロールモデルとなり得る人材を丁寧に育てるための、一貫教育システムを備える。

学園の中期目標（2010-2014）

CORNERSTONE 3: 高度に国際化された教育システムの確立

国際的な場面で活躍できる人材を育てるため、これまで培った国際的人材育成のノウハウをさらに進化させ、高度に国際化された教育機関として国内外に認められる水準の教育システムを確立する。

1. 外国語教育の強化

- 英語、中国語、韓国語等の外国語教育を強化する
- 外国語の公的試験をカリキュラムに組み入れる

2. 英語による学位取得コースの開設

- 留学生のニーズを調査し、専門分野とカリキュラムを決定した上で、英語による学位取得コースを開設する
- 海外とのダブルディグリープログラムを導入する

3. 留学生受け入れプログラムの充実

- 留学生経済支援制度の強化
- 留学生就職支援の充実
- 海外拠点、海外連携大学等との共同プログラムによる留学生アドミッションの充実

4. 留学生派遣プログラムの充実

- 派遣留学、海外実習の準必修化
- 派遣留学、海外実習プログラムの拡充と多様化の推進

5. 留学生との交流

- キャンパスにおける留学生と日本人学生の交流

桜美林大学の国際化に係る具体的な取り組み

- **教育の質保証と国際通用性を確保するための教育システムの整備に関する具体的な取組の概要**
(例: 科目ナンバリング、適切な学修時間確保など単位制度の実質化)
 - ① ディプロマポリシーとして、大学、各学群・学類の教育目標を達成し、定められた在学期間、単位数、GPAを満たしたものに学位を与える。なお本学では成績評価の基準として、国際標準的なGPA制度およびABC成績評価の採用し、アカデミックアドバイザー制度により、学生の科目履修・成績をモニター・管理している。
 - ② 全科目ナンバリング作成委員会を組織し、現在開講している全科目への具体的な科目ナンバーを振る作業を実施。平成25年度からの運用を目指す。
 - ③ 2011年度より、英語による学位コースなど国際通用性のあるプログラムをタイムリーに設定するプラットフォームとしての「インスティテュート」を開設した。今後、当プラットフォームに必要な学内のリソースを集め、国際的なプログラムを機動的に設定する予定。
- **世界で活躍する人材育成の観点から、特に力を入れている取組の概要と特色。**
(例: 日本人学生に対する特徴的な英語教育プログラム、留学促進のための環境整備、世界で活躍できる人材を受け入れるための入学者選抜)
 - ① 全学必修のコア科目として、主にネイティブ教員によるELP (English Language Program)の英語コア I A・I B・II A・II Bの合計8単位修得を課している。
 - ② LA学群およびBM学群(2013年度から)の学生に対して、語学+国際理解・インターンシップの15週間の海外派遣プログラム「GOプログラム」を授業料免除で実施している。
 - ③ 留学促進の環境整備のため、留学経験者による「グローバルサポーターズ(GS)制度」を設けており、留学を考えている学生に対して、GS学生が、留学説明、オリエンテーション、事前事後学習のアシスト、などを行っている。
- **アカデミックプログラム内における、学生の各種国際交流プログラムの体系的な位置づけ。**
(例: 単位授与の考え方・手法、プログラム参加年次等のルール)
 - ① 全4学群が選択科目として短期留学プログラムを設定している。特にLA学群の国際協力専攻は国際協力系(フィリピン、インド、バングラデシュ研修)の短期留学プログラムが選択必修となっている。
 - ② 短期留学プログラムやLA学群の「GOプログラム」経験者が、更なる本格的な長期留学プログラムに参加できるよう、学群のカリキュラムの調整が図られている。



ご清聴ありがとうございました！

